

氏名	切 塚 敬 治
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	甲 第 531 号
学位授与の日付	昭和57年3月31日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	A study on the mechanism of development of extramedullary hemopoiesis ; an observation on adult mouse liver 肝髄外造血成立機転の研究(成熟マウス肝における髄外造血 の観察)
論文審査委員	教授 小川勝士 教授 木村郁郎 教授 長島秀夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

髄外造血成立の機序を研究する目的で摘脾マウスを脱血することにより肝に髄外造血巣を形成させ、検討を行なった。成熟メスマウスを摘脾後20日目に眼窩より0.6 ml脱血し、経時的に観察すると、6日目をピークとする一過性の髄外造血が肝において見られた。この造血巣は赤芽球系、顆粒球系、巨核球と共に判別不能の芽球様細胞のものからなっており、それぞれ独立して存在していて、混在した造血巣はみられなかった。脱血後初期には小さな芽球様の造血巣が出現し、日がたつにつれ、赤芽球系、大きな顆粒球系の造血巣がふえてくる。このことは小さな芽球様の造血巣が赤芽球系、顆粒球系へと分化するものと考えられる。これらの造血巣は主に小葉内に存在するが、門脈域にもみられ、巨核球は小葉内にのみみられた。電顕的観察により核小体をもつ lymphoid cell が類洞内皮細胞を通りぬけ、Disse腔へと侵入、定着する像が見られ、また大きな造血巣もDisse腔内にあることが明らかにされた。これらのことは成熟マウスにおける肝髄外造血は胎児期肝造血と同様、血管外でおこることが明らかにされた。

論文審査の結果の要旨

本研究は摘脾マウスを脱血し、髄外造血の起こる過程を経時的に観察したところ先ず小芽球様造血巣が出現し、経過と共に赤芽球系と顆粒球系への細胞分化を示すこと、電顕的にリンパ球様にみえる未分化細胞が類洞内皮を通過してDisse腔へ侵入定着する所見を得たものであるが、髄外造血の機序と造血巣の部位を明白にした点重要な価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。